

# 人工種苗の放流効果調査(出雲海域)

(栽培漁業事業化総合推進事業)

内田 浩

## 1. 研究目的

出雲海域におけるマダイおよびヒラメの放流効果の検証と放流事業の普及啓発を目的とする。なお、この調査は出雲海域だけでなく、全県で調査が実施され、本場が石見海域で、栽培漁業センターが隠岐海域で調査を行う。また、各海域で島根県水産振興協会および各水産事務所、水産振興課と共同で調査が行われている。

## 2. 研究方法

漁獲統計調査の対象は美保関町漁協から大社町漁協までの出雲海域7漁協である。市場調査は恵曇漁協及び境港魚市で行った。また、出雲海域においては各漁業種類がマダイ、ヒラメを漁獲しているため漁獲量の大きな割合を占める漁業種類がない。したがって、各漁業種類別に調査を実施しなければならないため、過去の調査より体長組成が類似したグループに分け、そのグループ内で調査の行いやすい漁業種類について調査を行った。グループはマダイでは①沖底、小底1種、釣り及び延縄②小底2種③刺網④定置網の4グループとし、ヒラメでは①小底2種、②沖底及びその他の2グループである。なお、放流魚の確認は、マダイは鼻孔異常(鼻孔隔皮欠損)を、ヒラメは無眼側の色素異常を肉眼観察により行った。

## 3. 研究結果

### (1) マダイ

市場調査により2,871尾のマダイを測定した。測定されたマダイの尾叉長は14~73cmの範囲あるが、体長15から30cm程度の1、2歳の割合が高く60%を占めた。また、体長制限の15cmは遵守されている。鼻孔異常は22~60cmで13尾確認され、放流時の鼻孔異常割合と調査時の放流魚出現率から放流魚混獲率は2.3%と推定された。これにより、当海域のマダイ総漁獲量は144トン、水揚げ金額1億4,270万円で、この内放流マダイは1.9トン、水揚げ金額は191万円と算定された。

### (2) ヒラメ

市場調査により418尾のヒラメを測定した。ヒラメの体長制限は全長30cm(小底2種のみ25cm)となっており、体長制限より小型の個体も見られたが、漁獲の主体は30~50cmであった。放流魚は15尾確認され、放流魚の混獲率は、2.9%と推定された。これらにより、当海域のヒラメ漁獲量は54トン、水揚げ金額は7,468万円で、このうち放流魚は1.7トン、水揚げ金額237万円と積算された。今年度は平田市漁協所属の沖底が廃業したもののヒラメ漁獲量は前年度並であった。

## 4. 研究成果

研究結果は「平成14年度栽培漁業事業化総合推進事業マダイ、ヒラメ放流効果調査報告書」としてまとめられ、平成15年度市場調査担当者会議において報告される。また、(社)島根県水産振興協会を通じて関係漁業者に報告される。